

家庭科教諭 教員免許状更新講習 2020（令和2）年度を終えて

1. 講習のねらい

家庭科教育における住生活の領域では、住まいの機能性や快適性について学び、より良い住生活を創造する力を育むことが求められている。2020（令和2）年度に本学で開講した教員免許状更新講習のうち、選択領域講習（家庭科）では「住まいの機能性と快適性」をテーマに、生活行為がしやすい動線や家族のコミュニケーションが円滑なる間取り、人が生活しやすい家具の配置等に視点をおき、講義形式の基礎的学習と3D住宅デザインソフトを用いた住宅づくりについての講習を実施した。

2. 講習の実施状況

講習は、2020（令和2）年8月9日（日）に、本学人間生活学部花川校舎のコンピュータ室において実施した。受講者は、教員免許状（家庭）を取得している道内外の教員7名（高等学校や小学校に勤務している方など）であった。当日の概要は以下のとおりである。

9:00～10:00	1時間目	快適な住まいの基礎知識（講義形式）
10:00～11:10	2時間目	住まいの間取りやインテリアについて考える（講義形式）
11:20～12:20	3時間目	3D住宅デザインソフトを用いた間取り図作成
12:20～13:20	昼休み	
13:20～14:20	4時間目	3D住宅デザインソフトを用いたインテリアの表現
14:30～15:30	5時間目	作品の発表
15:40～16:40	6時間目	筆記試験

3. 講習の内容

（1）住まいの機能性と快適性について

1時間目の講習では、住まいの機能性と快適性について講義を行った。まず初めに、快適な住まいづくりについて、「住生活を考えるためには、その住まいに住んでいる人（住まい手）の生活行為と、その周りにある時間、空間、ライフスタイル、家族等との相互関係の中で見ていく必要がある」ということを確認した。

住まいにおける生活行為と空間は、「個人生活空間」「家事労働空間」「共同生活空間」「生理衛生空間」の4つに分類することができる。この空間においてどのように人の移動と行為を行うことができるかを考え計画することが大切である。住まいの計画では、ゾーニングを行い、平面構成における人の移動（動線）について注意を払いながら住まいの間取りについて考えることが必要となる。講習では、動線の良い間取りや、家具等の配置について話しながら、快適な住まいについて考えた。

さらに住まいの計画の際に大切になるのが、部屋の広さや家具・設備の配置と関係性、さらに各寸法である。家族人数と必要になる部屋の大きさや配置について事例を見せ解説した。

(2) インテリア計画の知識

—インテリアエレメント・色・テイストについて—

2時間目の講習では、インテリア計画について焦点を絞って解説した。まずインテリアエレメントの考え方について話した。その後、照明の機能や種類、および光とあかりの違い、さらに電球について基礎的な知識を学んでもらった。

また、色彩計画については、色の考え方として重要になる、「色相」「彩度」「明度」などの考えを取り入れながら計画する必要性について解説した。さらに配色の基本には「同系色」「反対色」「同一トーン」「類似色」などを工夫することで、対象となる空間がバランスの取れた配色になること等を説明した。

最後に、様々なインテリアテイストのスタイルの紹介と、さらに注意点として、「色」「素材」「形」の関係性に着目しながらインテリア計画をすることについて話した。

(3) 自分の考える住まい・インテリア計画

3時間目の講習では、3D住宅デザインソフト（3Dマイホームデザイナー）（図1）による住まいづくりを行ってもらった。具体的課題はこちらから提供し、今回は、72㎡（約30坪）の都市型のマンションの専有部分に関してインテリアを計画してもらった課題を提示した。計画する際のポイントとして、家族構成と住要求・インテリアテイスト・どのような暮らしが実現する住まいなのか、を考えてもらった。その次に、3Dマイホームデザイナーの中にあるキュート、ナチュラル、エレガント、カジュアル、和、シック、アジア、クラシック、モダンなどの外観・内観のテイストを選ぶ機能から、それぞれどのテイストにするのかを選択してもらった。参加者は講習会の前半で学んだことを参考にして、取り組んだ。



図1 3Dマイホームデザイナーガイドブック表紙

(4) 3Dマイホームデザイナーの操作と作品制作

本大学のパソコンを利用し、資料をもとに、3Dマイホームデザイナーの使い方について説明した。一通りの操作方法について学んでから、考えたインテリア計画をもとに制作作業に取り組んだ。ソフトの説明と制作作業を合わせて2時間程度で見本例のような住まいのデザインをすることができた(図2)(下記は見本として参加者に示した図である。左がソフト上で作成した間取り、右は3D化した間取り)。

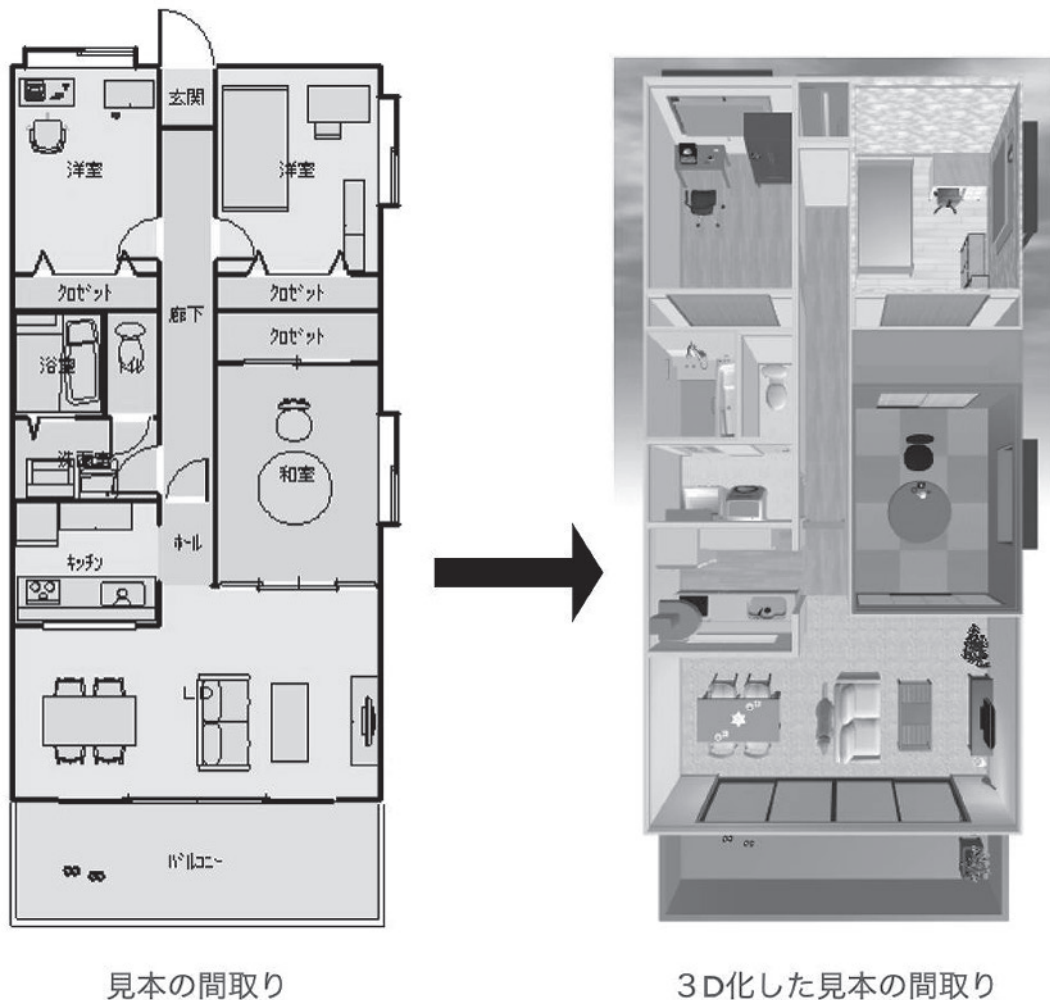


図2 3Dマイホームデザイナーで作成した間取り図の見本

(5) 作品発表

4時間目は作品の発表を行い、意見交換してもらった。同じ間取りであっても、床の素材や色、壁紙の配色で部屋の雰囲気が変わり、内装にあうインテリアも変わってくることに気づいてもらうことができた。先に示した真上からの間取り図の他に、参考例(図3)のように、3Dを駆使して、違う角度から見ることで、住まいのイメージをより具体化して考え、知ることができた。

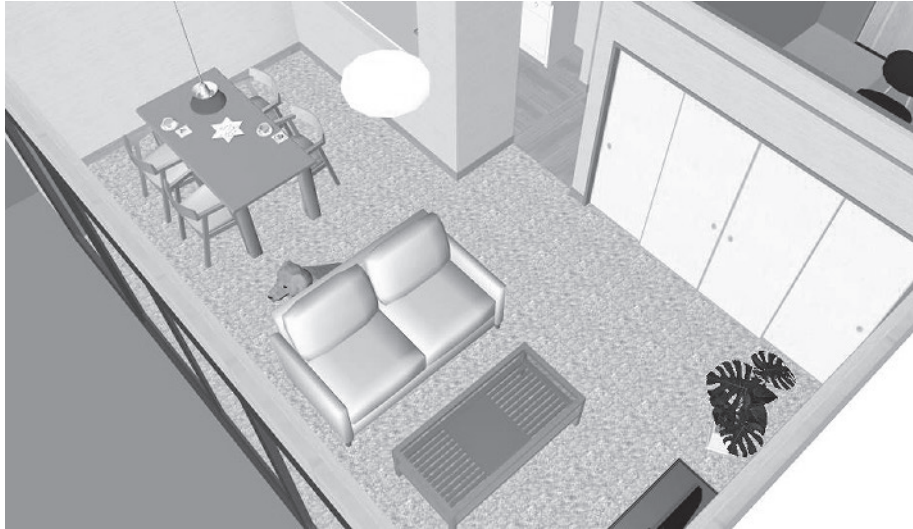


図3 斜めの角度に拡大した3Dによる内観の見本

(6) 筆記試験

講習で取り上げた内容から2題を出題した。試験時間は60分とした。

4. 講習を終えて

講習を終えて、参加者から次のような感想を得られたので、以下に、今回の受講者の方の感想を一部抜粋して示す。

- ・ とても楽しかったです。時間が足りなかった。
 - ・ 3Dソフトは、生徒の興味・関心を高めるために有効的だとわかりました。
 - ・ 今度の講習が自分のライフスタイルにもとても役立つものでした。
 - ・ 生徒の気持ちを追体験する良い機会となりました。ただ聞いているだけではない講習でした。ありがとうございました。
 - ・ (紹介した) インテリアコーディネーターの書籍を探してみようと思います。
 - ・ 住居分野の授業実践のために必要な知識を、実習を通して改めて学ぶことができました。
- 等

今回いただいたコメントを生かし、現場の家庭科の先生方が実践可能な内容を提供できるようこれからも取り組んでいきたいと思う。

住まいの機能性や快適性に関する基礎的な知識は、住まいの計画をする際にとっても大切になる知識である。また今回のように3D化した映像は、住まいのあり様の理解に役立ち、また住生活への興味・関心を高めるために有効なものと思われる。したがって今後も、家庭科教育の住領域においては、今回のようなパソコンソフトを用いた学習内容をさらに検討していく必要があると考える。これからも教育方法について検討を進めたい。

田中 宏実 (藤女子大学人間生活学部)